

よしたき
芳滝

ひとし
仁 議員

幕別町における 今後の幼稚園、保育事業について

日本の出生率は本格的な出産、子育て支援策を講じない限り低下し続ける恐れが強い。乳幼児の教育保育については今後、社会全体で保障するのがその方向性である。幕別町の乳幼児の将来推計について地区別の推移はどうか。その上で今後の保育所、幼稚園の施設整備と運営体制について地区別に伺う。

幕別地区の町立幼稚園と保育所について、幼保一体型の「こども園」への方向性はどうか。

札内地区については、延長保育や休日保育等、多様な保育ニーズに対応するための保育所の民設民営の方針について伺う。

幕別地区へき地保育所の通年化についてはどうか。

忠類へき地保育所についての、運営と責任体制について改善する必要がある。社会福祉法人等への運営の委託については、保育所であれば就労条件が発生し全ての乳幼児に対応できないので、「こども園」を目指すべきと考える。

また、幕別町全体の給食体制とアレルギー対応は十分か、専属の栄養士は配置されているか伺う。



幕別中央保育所の交通安全教室の様子

町長 過去3カ年の地区別出生

状況は、平成20年の出生は176人であり、このうち幕別地区は31人、札内地区は134人、忠類地区は11人である。平成21年は182人のうち、幕別37人、札内135人、忠類10人。さらに平成22年は196人の出生のうち、幕別39人、札内150人、忠類7人で、札内地区が微増の状況である。

幕別中央保育所とわかば幼稚園は、入所入園児童数の推移を考慮し、あり方について教育委員会と引き続き検討するとしたが、現在、

国は、認定こども園から「こども園」としての制度設計の検討をしているところで、具体的な内容が提示されていない状況のため、この計画期間後の取り組みになる。

札内南保育所については、民間による改築の上、平成26年度から民設民営により保育を行い、札内さかえ保育所は、幕別子育て支援センターを併設していることから、本町における保育及び子育て支援の拠点施設として保護者ニーズの把握に努め、本町保育行政の先導的役割を担う施設として位置づけをしている。

札内北保育所、札内さかえ保育所は平成26年までの間は、公設公

営としている。

幕別地域農村部の五つのへき地保育所については、「通年化の要望もあり、管内のへき地保育所の運営状況等を勘案し、今後は統合をも視野に入れた検討をする」とした。

忠類保育所については、「今後は入所児童数の減少が見込まれることから、当面は運営委員会による運営を継続し、ただし、平成26年度を目途に、保育経験のある社会福祉法人等に運営を委託することを検討する」とした。

給食体制は、自賄い方式により、1保育所につき調理師資格者を2人、児童数が多く、子育て支援センターの一時保育を行っているさかえ保育所は3人を配置し、2歳児までは完全給食、3歳以上児は主食を持参して、副食を提供している。

アレルギー対応では、毎月、町栄養士が作成する予定献立表に基づき、調理している。児童生活調査票及び保護者の申し出により、アレルギー対応の児童は13人いる。現在、保護者、保育士及び栄養士が連携を図りながら、一人一人の児童の心身の健全な発達を願い、保育及び給食を提供している。